

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①少人数指導、TT指導などを通して、効果的に学力向上を図る。 ②校内研究授業や日々を通じて積極的に授業公開し、生徒が主体的に取り組む授業をめざす。 ③放課後の学習会を実施し、基礎の定着を図る。形態を工夫し、生徒の自ら学ぶ意欲喚起に努める。	①少人数、TT指導などを通してわかりやすい授業づくりに努めた。 ②授業改善をめざした研究授業、カリマネに関連した研修を行い、実践に生かせるようにした。 ③定期的に実施し、対象生徒を明確にしながら生徒の基礎学力の向上につなげるよう努めた。	B
豊かな心	①コミュニケーション能力育成の取組として、生徒会と連携して「朝のあいさつ運動」の充実に努めていく。②横浜子どもの会議の内容を受け、全校生徒に報告提案を行う。③道徳、人権教育の情報交換を小学校、地域、保護者等と行い、9年間を通して、自己の生き方、人間としての生き方の考えを深めていく。	①生徒会と連携し、各学年の学級委員、企画委員を中心として、毎日「朝のあいさつ運動」を行うことができた。②子ども会議を行ったが、休校のため全校生徒への報告提案はできていない。③小学校、中学校での授業見学を通して、道徳、人権教育について考えを深めることができた。	B
健やかな体	①保健体育科では「健康の保持増進」を第一の目標とし、基礎体力の向上に努めるとともに、体を動かす楽しさや喜びを学ぶことで、生涯にわたって健康を意識し、運動を楽しむ生活を送れるようにしていく。②家庭科では、食教育と関連して保健体育・保健分野と連動した授業(特に食生活)を展開する。	①保健体育科ではウォーミングアップを工夫し、導入を意識して楽しく活動できるようにした。また、保健分野では他教科との関連を意識して取り組み、知識を深められるようにした。 ②家庭科では、食育との関連と、保健体育・保健分野との連動した食生活の充実を図る取り組みを行った。	B
生徒指導	①朝のあいさつ運動により、お互いに声を掛け合える関係をつくる。教育相談期間や日々の生活の中で、生徒とコミュニケーションをとる時間を大切に信頼関係を育んでいく。②横浜子ども会議で話したことをもとに学校生活を見つめなおし、課題があれば解決に向けて取り組んでいるように支援する。	①朝のあいさつ運動や、下校指導の時間を大切に、生徒とコミュニケーションを深めるように努めた。教育相談期間だけでなく、授業や休み時間にも生徒理解することを心掛け、信頼関係を築いた。②横浜子ども会議で話したことをもとに、みんなが安心して過ごせる環境づくりに力をいれた。	B
保健安全管理	①安全点検により、問題点の早期発見と適切な処置にあたる。また、清掃活動強化週間(クリーン共進)等の清掃活動を充実させていくことで、安全・清潔な教育環境づくりに努める。②朝の健康観察、確認連絡を確実にし、不登校の前兆、感染症の発生等に対し早期に対応できるようにする。	①安全点検が細部にわたり行われ、各部署と連携しながら計画的に修理、修繕され整備の充実が見られた。クリーン共進を継続的に高い清掃活動の充実を継続させていく。②生徒の健康管理について連絡を取り合いながら対応がなされた。	B
保護者、地域との連携	①評価説明会や年4回の懇談会、地域懇談会で学校経営方針について説明を行う。②学校便りを毎月発行し、さらに学校ホームページに掲載して、教育活動の報告など積極的な情報発信に努める。また、メール配信による緊急時等の連絡を行えるようにする。	①については本年度より学校教育目標を変更し、学校経営方針について説明することができた。②については学校便りを毎月発行し、効果的に情報を発信することができた。また、学校ホームページによる積極的な情報発信に努め、メール配信による連絡を十分行った。	B
特別支援教育	①生徒の持つ困り感について、情報をもとに適宜ケース会議を行い、可能な支援を展開する。②通級指導教室の専門的支援センター機能を特性から行動を理解する際に有効活用し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と実際の支援が生徒のニーズに適しているか評価する。	①月1回ケース会議を行うことが難しかったため、SCが勤務日に情報交換や報告を個々に話をもつことを心がけた。②校内研修を2回もち、特別支援教育全般の知識を学び、今年度の「個別の教育支援計画」作成の実践を行った。	B
通級指導(センター機能)	①支援を必要とする生徒が、本来の力を発揮できるようにするために通級による指導を行います。それぞれの課題や状態に応じて生徒自身が社会及び環境に主体的に参加し、自立していくための支援を行います。②在籍校と連携を取り、実態把握や手立ての提示、支援計画作成への協力を行います。	①については、在籍校や家庭、外部機関と連携を取りながら、生徒一人ひとりの課題や強みを把握するように努め、生徒自身が社会及び環境に主体的に参加し、自立していくための支援をした。②については、在籍校のニーズを確認し、校内の特別支援体制が充実するよう連携に努めた。	B
いじめへの対応	①いじめの起きない生活環境作りをするとともに、常に生徒の実態把握に努める。 ②月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努める。	①いじめの早期発見、事案対処のため、いじめの疑いに関する情報や生徒の問題行動等に係る情報の収集と記録を共有した。②いじめを受けた生徒に対する支援、いじめを行った生徒に対する指導の体制、対応方針の決定と保護者との連携といった対応を組織的に実施した。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①教科指導・人権指導・生徒指導や保護者との連携等の研修会を年4回実施する。②5年次までの教員が年間数回の授業見学と研究授業を計画的に実施する。また、5年次までの教員が集まって講習会を開けるように計画する。③働き方改革の視点から、教職員が快適に作業できる環境を作るための議論を進めていく。	①教科指導・人権指導・生徒指導や保護者との連携等の研修会を年4回実施できた。②5年次までの教員が授業見学と研究授業を実施した。また、5年次までの教員が集まる講習会も開催することができた。③定時退勤日の活用が定着してきた。また、各会議についての回数を減らす議論を行った。	B
ブロック内評価後の気づき	教科毎に研究授業参観を行い、授業に関する協議及び人権的な観点での指導の意見交換を行った。授業では主体的な活動やICTが活用され、リーダーを中心に活発な話し合いが行われていた。今後は新教育課程に合わせ小中の連携やつながりを意識した教育活動を研究していく必要がある。また、国際的な視点からは、図や写真を使用し、視覚的に分かりやすい授業を行うことや、授業への通訳入り込みの増加の必要があるとの意見があった。		
学校関係者評価	・学校全体は落ち着いた雰囲気生活している。・学校生活や部活動など、楽しんで過ごしているようなので安心している。・小中の連携や交流が充実しているが、学力向上に向けて一層の協力が望まれ、中学生が地域行事等への参加が少なく、中学生の地域行事への参加をお願いしたい。桜まつり、南まつり、光のぶるむなあと等小中学生ともに喜んで参加する行事も多いが、防災の観点からも地域行事に中学生に力が欲しい。		

中期取組目標振り返り	・新しい学校教育目標の下、学校経営中期取組目標において、9つの重点取組分野の目標の実現に向けて、全職員で取り組んできた。担当部署が明確になってきて、職員の参画意識の向上につながっている。 ・生徒の地域活動への積極的な参加については、学校と地域が連携して取り組んでいく必要があると考える。「まち」とともに歩む学校懇談会を中心としながら、取り組んでいきたい。 ・新教育課程の検討を通じて、個々の教育活動の意義や方法について検討してきた。より充実した教育
------------	--

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①少人数指導、TT指導などを通して、効果的に学力向上を図る。 ②校内研究授業や日々を通じて積極的に授業公開し、生徒が主体的に取り組む授業をめざす。 ③放課後の学習会を実施し、基礎の定着を図る。形態を工夫し、生徒の自ら学ぶ意欲喚起に努める。	①少人数指導、TT指導などを通して、効果的に学力向上を図る。 ②校内研究授業や日々を通じて積極的に授業公開し、生徒が主体的に取り組む授業をめざす。 ③放課後の学習会を実施し、基礎の定着を図る。形態を工夫し、生徒の自ら学ぶ意欲喚起に努める。	
豊かな心	①コミュニケーション能力育成の取組として、生徒会と連携して「朝のあいさつ運動」の充実に努めていく。②横浜子どもの会議の内容を受け、全校生徒に報告提案を行う。③道徳、人権教育の情報交換を小学校、地域、保護者等と行い、9年間を通して、自己の生き方、人間としての生き方の考えを深めていく。	①コミュニケーション能力育成の取組として、生徒会と連携して「朝のあいさつ運動」の充実に努めていく。②横浜子どもの会議の内容を受け、全校生徒に報告提案を行う。③道徳、人権教育の情報交換を小学校、地域、保護者等と行い、9年間を通して、自己の生き方、人間としての生き方の考えを深めていく。	
健やかな体	①保健体育科では「健康の保持増進」を第一の目標とし、基礎体力の向上に努めるとともに、体を動かす楽しさや喜びを学ぶことで、生涯にわたって健康を意識し、運動を楽しむ生活を送れるようにしていく。②家庭科では、食教育と関連して保健体育・保健分野と連動した授業(特に食生活)を展開する。	①保健体育科では「健康の保持増進」を第一の目標とし、基礎体力の向上に努めるとともに、体を動かす楽しさや喜びを学ぶことで、生涯にわたって健康を意識し、運動を楽しむ生活を送れるようにしていく。②家庭科では、食教育と関連して保健体育・保健分野と連動した授業(特に食生活)を展開する。	
生徒指導	①教育相談期間や日々の生活の中で、生徒とコミュニケーションをとる時間を大切に、信頼関係をつくる。②生活の決まりをしつかりと守れる生徒を育てていく。③自分を振り返り、これからの生活に生かせるように支援する。	①教育相談期間や日々の生活の中で、生徒とコミュニケーションをとる時間を大切に、信頼関係をつくる。②生活の決まりをしつかりと守れる生徒を育てていく。③自分を振り返り、これからの生活に生かせるように支援する。	
保健安全管理	①安全点検により、問題点の早期発見と適切な処置にあたる。また、清掃活動強化週間(クリーン共進)等の清掃活動を充実させていくことで、安全・清潔な教育環境づくりに努める。②朝の健康観察、確認連絡を確実にし、不登校の前兆、感染症の発生等に対し早期に対応できるようにする。	①安全点検により、問題点の早期発見と適切な処置にあたる。また、清掃活動強化週間(クリーン共進)等の清掃活動を充実させていくことで、安全・清潔な教育環境づくりに努める。②朝の健康観察、確認連絡を確実にし、不登校の前兆、感染症の発生等に対し早期に対応できるようにする。	
保護者、地域との連携	①評価説明会や年4回の懇談会、地域懇談会で学校経営方針について説明を行う。②学校便りを毎月発行し、さらに学校ホームページに掲載して、教育活動の報告など積極的な情報発信に努める。また、メール配信による緊急時等の連絡を行えるようにする。	①評価説明会や年4回の懇談会、地域懇談会で学校経営方針について説明を行う。②学校便りを毎月発行し、さらに学校ホームページに掲載して、教育活動の報告など積極的な情報発信に努める。また、メール配信による緊急時等の連絡を行えるようにする。	
特別支援教育	①生徒の持つ困り感について、情報をもとに適宜ケース会議を行い、可能な支援を展開する。②通級指導教室の専門的支援センター機能を特性から行動を理解する際に有効活用し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と実際の支援が生徒のニーズに適しているか評価する。	①生徒の持つ困り感について、情報をもとに適宜ケース会議を行い、可能な支援を展開する。②通級指導教室の専門的支援センター機能を特性から行動を理解する際に有効活用し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と実際の支援が生徒のニーズに適しているか評価する。	
通級指導(センター機能)	①支援を必要とする生徒が、本来の力を発揮できるようにするために通級による指導を行います。それぞれの課題や状態に応じて生徒自身が社会及び環境に主体的に参加し、自立していくための支援を行います。②在籍校と連携を取り、実態把握や手立ての提示、支援計画作成への協力を行います。	①支援を必要とする生徒が、本来の力を発揮できるようにするために通級による指導を行います。それぞれの課題や状態に応じて生徒自身が社会及び環境に主体的に参加し、自立していくための支援を行います。②在籍校と連携を取り、実態把握や手立ての提示、支援計画作成への協力を行います。	
いじめへの対応	①いじめの起きない生活環境作りをするとともに、常に生徒の実態把握に努める。 ②月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努める。	①いじめの起きない生活環境作りをするとともに、常に生徒の実態把握に努める。 ②月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努める。	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①教科指導・人権指導・生徒指導や保護者との連携等の研修会を年4回実施する。②5年次までの教員が年間数回の授業見学と研究授業を計画的に実施する。また、5年次までの教員が集まって講習会を開けるように計画する。③働き方改革の視点から、教職員が快適に作業できる環境を作るための議論を進めていく。	①教科指導・人権指導・生徒指導や保護者との連携等の研修会を年4回実施する。②5年次までの教員が年間数回の授業見学と研究授業を計画的に実施する。また、5年次までの教員が集まって講習会を開けるように計画する。③働き方改革の視点から、教職員が快適に作業できる環境を作るための議論を進めていく。	
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
生徒指導	c4		
保健安全管理	c5		
保護者、地域との連携	c6		
特別支援教育	c7		
通級指導(センター機能)	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--